

3D メタルプリント技術を利用した矯正装置の臨床応用例

Clinical applications of orthodontic devices using 3D metal printing technology

井口 善隆 Yoshitaka Iguchi

井口矯正歯科院長

1999年3月 大阪大学歯学部卒業

2000年3月 大阪大学歯学部附属病院研修医修了

2004年3月 大阪大学大学院歯学研究科修了

2004年4月 大阪大学歯学部附属病院医員

2007年1月 NTT 西日本 大阪病院歯科口腔外科医員

2009年4月 同 医長

2011年4月 井口矯正歯科副院長

2021年1月 井口矯正歯科院長

2023年2月 医療法人善和会 理事長

最近の3Dメタルプリント技術の向上により、様々な形の装置のデザインが行えるようになってきました。そのメリットは、リジッドで、薄く、デザイン性に優れると言ったことが考えられます。

また、口蓋形状の症例ごとの違いにも対応しやすく、安全なエリアにTADを埋入出来るのも利点です。

私は、この技術を用い始めたのはシューライダー装置を使用し始めてからですが、それ以降、埋伏歯のけん引やリンガル矯正のアンカレッジにも活用の幅を広げています。

まだ使用を始めて時期の浅い装置ですが、臨床応用例として症例をご供覧させていただきたいと思います。